

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2014 (平成26年) 第67号

目次

ご挨拶	2
母校の限りなき発展に!!	2
平成26年度総会・懇親会開催	3
平成25年度校友会決算および 平成26年度校友会会計予算	3
校友だより	4
校友だより	5
トピックス	6
富嶽会(植物資源科学科)	7
紫友会(生命化学科)	8
角笛会(獣医学科)	9
満喜葉会(動物資源科学科)	10
いもづる会(食品ビジネス学科)	11
あすなる会(森林資源科学科)	12
桜水会(海洋生物資源科学科)	13
工学会(生物環境工学科)	14
FT会(食品生命学科)	15
拓友会(国際地域開発学科)	16
応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	17
短期大学部湘南校友会 (短期大学部生物資源学科)	18
支部だより	19
校友会役員・事務局名簿	20
校友会事務局からのお知らせ	20



あなたとともに
100万人の仲間とともに



高層棟新1号館(創設60周年記念棟)全景



「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部 学部長 河野 英一



日本大学生物資源科学部校友会の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本学部の近況をお知らせいたし、ご挨拶とさせていただきます。

2年前に本学部が創設60周年を迎えたのを記念する60周年記念棟の1つである高層棟新1号館が、以前に学生ホールがあったところに本年7月末に完工となり、無事に修祓式を終えることができました。近代的で快適な内装を誇る講義室、学生ホール、イベントホール等からなる5階建のものであります。来年6月頃には、もう1つの記念棟として、これまでの1、2、3号館を更新して壁面緑化、屋上緑化等の環境配慮からなり、屋上を一般通路とする2階建の低層棟新2号館も完工の予定であります。これらの完工によって、本キャンパスの教育環境が一層充実されることとなります。

また、来年4月より、本学部に「くらしの生物学科」が新設され、「植物資源科学科」の名称がカリキュラム改正に伴って「生命農学科」へ変更されます。

今日、市民が生活の中で判断に迷い最も不安を募らせているものの1つが食材、食品、生態系、環境などの生き物に関わる問題で

あります。これらについて正しく理解し判断するには、生物学とその関連科学からの視点を備え、広い視野から社会を真摯にリード出来る能力を身に付けたグローバルな「賢い生活者」となる人材を育てる必要があります。この人材を育てるのが「くらしの生物学科」であります。この学科には、「都市と園芸」「くらしのバイオ」「くらしの微生物」「食と健康」「住まいと環境」「動物のいるくらし」の6研究室が設けられています。

「生命農学科」の名称変更は、これまでに築いてきた教育・研究の伝統と蓄積を礎としつつ、「植物の遺伝子からフィールドまでを科学する」学科へと対応領域が広がることを表意するものであります。

さらに、本キャンパスにおいて、日本大学130周年の大きな記念事業の一つとして日本大学の初の附属小学校となる日本大学藤沢小学校の建設が進められてきました。この小学校の校舎・体育館・運動場等の施設が本年7月末に無事の竣工となり、来年4月の開校が待たれるばかりとなっています。これにより、本キャンパスは小学校から中学校・高等学校・学部・大学院までがある教育課程の総合

学園となりました。

日本大学藤沢小学校では、特に発展教育において、キャンパス内の自然的・農業農村的な環境、農場、演習林、食品加工実習所、博物館、図書館などの活用を通じた体験学習による理科教育・環境教育・総合教育が積極的に導入されます。また、国際化を基盤におく最先端のネイティブによる英語教育およびパソコンを使った情報通信技術教育も導入されます。

今、日本大学は「日本一教育力のある大学」の達成を目指しております。そのためには、児童・生徒・学生・院生が「学びの面白さ」と「学んで成長していく喜び」を知り、日本大学の教育目的である「自主創造」を確実に身につけることが基本となります。このことを教育の基本に据え、本キャンパスの小・中・高・大・院の全ての教育課程における社会的評価の高水準化を図るために、創設60周年を起点として、教員一同は一丸となって教育のあり方、方法等を革新しつつ、教育に尽力して参ります。

母校の限りなき発展に!!

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎



全国に私立・公立・国立大学が775校ありますが、近年の少子化傾向は、全入時代を迎え、大学だけではなく大手予備校を含めた、全ての教育関係組織に経営上の危機感があると言われて

います。少子化問題は、現在だけでなく日本が近代化に進み始めた明治以降にも何回か経験しています。

明治4年明治政府は、不平等条約改正の予備交渉と先進諸国の法律・裁判制度・議会制度・税金・国債・貿易・郵便事業・教育・軍事・造船等の研究に、全権大使岩倉具視以下46名を欧

米視察団として派遣しています。

この中に日本大学学祖である28歳の山田陸軍少将が理事官として参加しています。帰国後、山田理事官は建白書を政府に提出します。

日本という小国が世界の列強の中で生残ることが難しい時代であっても、これからの日本の為に「教育というものをまず先にやらなければいけない」という提言をしていきます。この提言が正に創立125年の日本大学を貫いている支柱と考えます。

河野学部長は常々「日本大学は日本一教育力のある大学を目指す」と話されております。

この言葉が、少子化問題に対する答えの1つではないかと思

います。私達校友会も、日本大学の建学の精神を通じて、日本大学の発展にどう貢献できるかをもう一度考え直すいい機会を与えられているのだと思います。



お知らせ

河野 英一学部長が日本大学副学長に就任
平成26年9月1日に行われた日本大学理事会
において副学長に任命、承認され同時に学長
代理・代行者にも任命されました。

内田 俊太郎 学部校友会会長並びにあすな
ろ会会員 加藤 和英氏が日本大学理事に就任
平成26年9月10日に行われた日本大学理事
会において理事に任命されました。

平成26年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会・懇親会報告

平成26年度の通常総会及び懇
親会は、平成26年7月12日(土)
開催しました。

通常総会は、日本大学生物資
源科学部NUホールAにおいて
午後2時から107名の会員に出席
をいただき、早川幹事長の開会
の辞、司会進行で開始しました。

議長に紫友会浜野会長が就任し、
議事録署名人に「あすなろ会の
東郷会員」及び「FT会の栢会員」
が満場一致で選出されました。

校友会執行役員の紹介後、議
事に入り、まず、報告事項として「表
彰規定及び受章者の選考要領」
の改正報告、続いて平成26年度
表彰は、準会員が組織する団体、
環境美化・保全等の活動を行っ
ている「エコクローバー」に決定

した。と報告がありました。

次に審議事項の5案を審議し
全て承認されました。

- 1 分会選出幹事の交代
2 会則の改正
3 平成25年度事業報告及び
会計決算報告
4 平成26年度事業計画(案)
及び会計予算(案)
5 監査役の選出

審議終了後、浜野議長は議長
を辞任、早川幹事長が閉会宣言し、
平成26年度通常総会は、午後3時
20分閉会しました。

懇親会は、同日午後4時から学
部内食堂棟において田中日本大
学理事長・校友会会長、大塚日本

大学学長、河野生物資源科学部
長を始め、日本大学校友会本部
及び他学部校友会の来賓の方々
並びに学部教職員及び会員の方々
総勢172名のご出席をいただき、
早川幹事長の開会の辞、司会進
行で開始しました。

校歌斉唱、内田校友会会長挨拶、
来賓の挨拶、平成26年度表彰式
と続き、滝沢生物資源科学部事
務局長の乾杯の音頭で懇親会は
始まりました。

昨年度に引き続き、各分会毎
にテーブル席を設け旧交を温め
ていただきました。

約2時間の懇親会の時間もあ
つという間に過ぎ来年の再会を
約束し、早川幹事長の閉会の辞
で午後5時50分平成26年度懇親
会は終了しました。

平成25年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算
(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

Table with 5 columns: 科 目, 25年度予算(A), 25年度決算(B), 差異(A-B), 摘 要. Includes rows for income and expenses.

平成26年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算
(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

Table with 5 columns: 科 目, 26年度予算(A), 25年度決算(B), 差異(A-B), 摘 要. Includes rows for income and expenses.

Table with 5 columns: 科 目, 25年度予算(A), 25年度決算(B), 差異(A-B), 摘 要. Detailed breakdown of expenses.

Table with 5 columns: 科 目, 26年度予算(A), 25年度決算(B), 差異(A-B), 摘 要. Detailed breakdown of expenses.

校友だより

農芸化学と歩む

農芸化学科

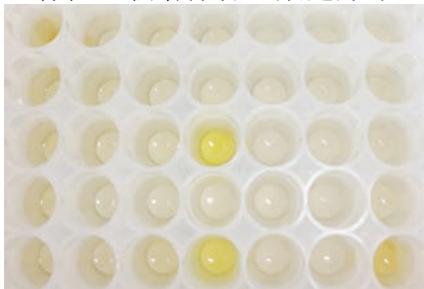
平成14年卒業 村上 紀里子
株式会社ネオ・モルガン研究所

趣味の旅行 シチリア島にて撮影

農芸化学科に入学し、動物・植物・微生物・環境など広い分野について勉強しました。

その中でタンパク質、特に酵素の働きに興味を抱き、生物有機化学研究室に入りました。シトクロムcという活性中心に鉄を持つタンパク質を対象に金属を変えたらどのような活性を示すか、どのアミノ酸を変えたらより高い活性になるか、構造予測ソフトによるシミュレーションを見ながら必死に考えました。その結果、天然の酵素よりも高い活性を示す酵素を創製することに成功しました。今思えば突っ込みどころが満載の計画ではありましたが、自分のやりたい実験ができるのは今だけかもしれないと思い、前向きに取り組んだこの3年間はかけがえのないものでした。

現在は、株式会社ネオ・モルガン研究所に入社し、産業に有用な微生物の育種改良を行っています。育種は栽培作物や醸造酵母の



育種することで、目的物(黄色)の生産量が上がりました。

改良など古くから日本が得意とする技術であり、多くの農芸化学者が活躍してきたフィールドです。現代は組換えDNA技術の

発展により直接遺伝子を操作することで、育種のスピードが著しく加速したように思われます。しかし、生体内の代謝は培養環境中で刻々と変化するため、ピンポイントにターゲットを捉えた育種のみでは必ずしも良い生産菌になるとは限りません。約9年間この仕事を続けてきた今、私は生物を複雑なまま捉え、自然な環境で得られる変異の大切さを改めて痛感しています。

今後もしろいろな生物に接し、様々な生産物を作ってきた経験の一つ一つを大切にして、生物の声に耳を傾ける研究者でありたいと思っています。

**獣医師としての新たな
キャリアパス、そして仲間たち**
獣医学科
平成18年卒業 北中 卓
ロイヤルカナン

ジャポン合同会社

私は、卒業後2年半ほど動物病院で臨床獣医師として犬や猫の診療をしていましたが、犬や猫と向き合っているうちに、栄養学の重要性を追求し、広く知らしめていきたいと考えるようになり、ペットフードメーカーのロイヤルカナンに入社しました。ロイヤルカナンでは、栄養学など海外情報の国内(動物病院や大学)への浸



フランスの皮膚病専門家Dr.プレロー(写真中央)との動物病院訪問(新宿 木村動物病院)

透や、国内で得た疫学・臨床データ等のフランス本社への報告を担当しています。私の仕事では、扱う製品が主に療法食であることから獣医学の知識、さらに海外との情報シェアのために語学やコミュニケーション力が必須です。カッコいいと思われるかもしれませんが、次々に直面し続ける壁にぶち当たり続けているのが現状です。しかしながら、壁を越え



第50回 日本大学獣医学会での講演

るためにいつも力を貸してくれる友人がいます。学部時代からの仲間動物病院を開業した友人や大学教員になった友人が、データ収集のために力を貸してくれます。仕事で困った時や悩んだ時は、お世話になった先生方が今でも親身に相談にのって、一緒にソリューションを考えてくださいます。

私はロイヤルカナンで「Health Nutritionを世の中に浸透させる」という目標に向かって頑張っていますが、多くの方の支援によって一つ一つ壁を乗り越えていることをいつも実感し、感謝しています。栄養学の観点からの動物への貢献は認知されていない仕事かもしれませんが、日々の食事からの貢献は必ずや大きな成果を生むものですし、その積み重ねが次の世界を作り上げていくと確信し、日々頑張っています。

植物代謝の全体像を知りたい
応用生物科学科
平成11年卒業 澤田 有司
独立行政法人 理化学研究所
統合メタボローム研究
グループ 研究員

私は自身の努力で新しい発見に立ち会える研究職に憧れ、今の進路を選択しました。学部4年で生体分子学研究室に配属し、一貫して植物の代謝研究を行っています。新規の化合物を扱う代謝研究は、色々な可能性を考えながら、地道に試行錯誤を重ねる必要があります。このため、多くの代謝研究者は“色々な代謝産物が一度に測れたら、もっと研究が進展するのになあ”と考えていました。この代謝産物の一斉検出手法がメタボローム解析です。

2005年度に理研のメタボローム基盤研究グループが発足し、
次ページへ続く

前ページより続く

私もその一員として新しい研究をスタートしました。当初は分析担当ではなく、生化学的な研究を発展させる予定でした。しかし、初期のメタボローム解析の弱点に気づき、“自分でも何か出来ないだろうか？”と考え始めました。そこで、標準化合物に基づく高感度検出手法を拡張したワイドターゲット解析を開発しました。苦労話は割愛しますが、多くの共同研究者にご助力いただきながら現在では500以上の化合物の検出が実現しています。



メタボローム解析に利用している分析機器

一人でこつこつ始めた分析技術の開発ですが、いまでは米国 National Science Foundation に講演依頼されるほど話題になっています。この分析関連技術で米



招待講演(40分間×2題) フロリダ大学にて2014.5.22。左 澤田 右 平井(現職の上司)

国特許も取得できたので、この分析技術が世界標準のメタボローム解析になることも夢ではありません。すでに、同技術を農作物に応用利用し、特定機能成分を高蓄積した商品が試験販売されています。これまでの成果は主に基礎研究ですが、これからは“世の中に役立つ食べられる成果”を目指して頑張ろうと思っています。

日々の責任とやりがいを感じて!!

短期大学部生活環境学科
平成19年卒業 岩崎 貴洋
東京都中央卸売市場大田市場
私は日本大学短期大学部を卒業し、東京農業大学農学部へ編



入学しました。東京農業大学では野菜の生産について学び、大学卒業後は野菜の卸売りをする東京都中央卸売市場大田市場に勤めることになりました。

大田市場は野菜の取扱量が日本一です。壁のように積み重ねたものすごい量の野菜が毎日売り買いされ、市場内の通りはモトラと言う、市場でしか見られない小型の野菜を運ぶ車で渋滞し、そして何より人の多さに圧倒されます。

私の仕事はせり人と言います。テレビで見かけるせりと言う売り方はせず、直接スーパーのバイヤーなどと交渉し取引します。生産者に野菜を売らせてくれと頼み、委託販売し、委託手数料をもらい利益を出します。多くの野菜を出荷してもらうには少し

でも価格を高く販売するようにします。その為には情報収集がかかせません。産地の天候、気温、この先その野菜は増えるのか減るのかなど、自分の人脈をフルに使い、自分なりに解釈し、お客さんへ売り込みをかけます。信用が高まれば、信頼につながり取引先も増えます。生産者、お客様の間にはちバランスを保つことが私たちの仕事です。



大田市場での「せり」風景

私は今年で入社5年目になり、現在、野菜では主力となる茄子を担当しています。売り上げも大幅に上がり取引先も増え、毎日がとても刺激的です。責任のある大きな仕事を与えてもらい、日々やりがいを感じています。

トピックス 東日本大震災支援報告

第4回福島子どもキャンプを実施



福島キャンプ カヌー体験



福島キャンプ 太鼓演奏会

第4回福島こども自然体験キャンプは、8月9日～12日の3泊4日の日程で、今年も学部の富士自然教育センターで、学部校友会などの協賛をいただき、実施することができました。東電福島第一原発事故による避難生活がいまだに続く、福島県川俣町山木屋の小中学生27人を始めとする保護者や学生など51名が参加して、カヌーや鹿皮細工、宝探しなどのプログラムを楽しみま

した。お昼はボランティアの方による地元富士宮焼きそばや、OGのお蕎麦屋さんによる手打ちそばを堪能しました。また、今年は、日大国際救助隊の支援を受け、トレーラーをステージに、太鼓の演奏会をキャンプ場で開催しました。地元の太鼓グループの演奏を聴いたり、子どもたち、学生が地元の方と一緒に太鼓を叩いたりして、大いに盛り上がりしました。

トピックス**宮城県東松島市・大曲浜発 復興と友好のシンボル大きく育て!!**

平成26年8月14日に台湾の地方議員（日本大学出身者も含む）らで構成される親睦団体、「台日親善蘭桜会訪日団」のメンバーら有志（州議会正副議長・議員等27名）が、東日本大震災で被災した東松島市を訪れた。津波で流失再建された大曲地区の玉造神社で植樹し、住民達と交流した。

台湾からは日本に関心を持つ議長を含む議員団を代表して、現地植樹式終了後、蔡財源団長より「復興祈願植樹基金」として100万円を大曲地区委員会の相沢勝利委員長（70）に贈った。訪日団は植樹を今後も継続する意味合いを持つ、相沢勝利委員長は「神社を震災の教訓を伝える場所にしたい」と述べた。蘭桜会の河村常夫駐日代表（79）は「被



災した方々と苦しみを分かち合いたい。台湾と日本の親善のシンボルとして、来年以降も植樹を続けていく」と話した。



被災者は「記念植樹・慰霊碑献花/黙祷・鎮魂歌斉唱」に訪日団の方々より復興遅れを心配いただ



き改めて感謝の念を覚えました。

（一部平成26年8月15日河北新報、平成26年8月20日石巻かほくを引用）

台日親善蘭桜会は、平成21年台湾畜産考察から始まり日本大学卒業生も加わり設立。のちに台日友好議員団有志からも協力をえて「台日友好」を理念に置き親睦団体として活動を続けている。

感謝!!

8月14日、台湾から校友を含む蘭桜会メンバー27名が宮城県東松島市大曲浜地区を訪れ、東日本大震災復興祈願の植樹祭が厳かに挙行されました。河野英一学部長、同会の高坂鉄雄会長（元教授）、藩英仁駐日代表（元教授）、そして宮城県支部校友など多数が同行されました。また市役所関係者や地元住民の方々も加わり、約80名が参加しました。

7月下旬、高坂先生からご連絡を頂き、郷里のことなので

私も急遽参加させていただきました。宮城県議会前副議長の小野隆氏のご尽力により、今回も郷里にご支援をいただくことになりました。大曲浜地区は仙台台湾に面した所で、私の母校、矢本第二中学校の学区域になります。この地区は大津波で壊滅状態、もう人は住めなくなりました。現在でも多くの住民は仮設住宅に住んでいるようです。

震災前は570世帯、1750名が住んでいましたが、316名の尊い命が奪われました。6名の同級生を失いました。私の出身地

は海岸から直線距離で6 km程離れた平場の農村地区。大曲浜は子供の頃から海水浴や潮干狩り、釣りなど、よく遊んだ場所でした。中学で海の民の子らと出会い、異文化体験を味わった思い出深いところです。慶長の天津波（1611年）時はどうであったのか、今度調べようと思います。台湾から今回も多額のご寄付をいただき、郷土出身者の一人として深く感謝しております。

国際地域開発学科
教授 半澤 和夫

富 嶽 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3503 事務局長 磯部 勝孝
E-mail: isobe64@brs.nihon-u.ac.jp

富嶽会総会



富嶽会総会

60周年記念事業の際に決定した農学校友会の新名称である「富嶽会」としての第1回総会が平成26年5月10日に開催され、新たな会長・副会長・理事のもとスタートしました。会長には長島武志



富嶽会会長 長島 武志 氏

氏(29期)、副会長には佐々木透氏(30期)及び市川靖氏(37期)がなられました。以下、庶務理事は井上弘明氏(25期)、会計理事は山寺信幹氏(34期)、事務局長は磯部勝孝氏(40期)、理事には小木曾裕氏(31期)・長谷川喜好氏(37期)・木村一雄氏(38期)・伊藤文喜氏(43期)・中田和見氏(46期)・葉山博史氏(49期)・佐藤一朗氏(54期)・太田雄三氏(55期)・井出寿利氏(57期)・小見創介氏(60期)・秋澤義巳氏(62期)・宍倉寛人氏(64期)・小野裕士氏(64期)ならびに白岩弦氏(65期)が、監査役には石川圭一氏(35期)及び片受明氏(49期)が、庶務係には井村喜之氏がなられました。これまでの農学校友会会長の石川稔矩氏をはじめ役員の皆様、長い間ありがと

うございました。心より感謝申し上げます。

学部長賞の受賞

植物資源科学科を平成15年度に卒業した井出寿利氏が3月25日に生物資源科学部学部長賞を受賞しました。トマトの大規模経営や6次産業化に成功されており、平成22年藤沢市園芸まつり農産物品評会にて優秀賞、神奈川県知事賞を受賞し、全国農業コンクール(2013年)では農林水産大臣賞を受賞しました。受賞おめでとうございます。

植物資源科学科の近況

[卒業生・新入生]

本年3月に159名(男子90名、女子69名)の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。今後の活躍を期待しています。卒業を記念して校友会からUSBメモリーが送られました。また、4月には新入学生150名(男子91名、女子59名)を迎え、総数608名(男子352名、256名)の学生が在籍しています。新入生オリエンテーションは4月12日に鶴沼海岸で実施され、お互いの親睦を深めました。学科ではこのオリエンテーションの際に、毎年、海岸の清掃活動を実施しており、長年の活動に対して公益財団法人かながわ海岸美化財団から感謝状をいただきました。また、5月15日には学部主催のスポーツフェスタが行われ、校友会から寄贈されたTシャツを着て競技に奮闘しました。

[学科教員の動向]

本年4月1日付で畠山吉則先生(応用昆虫学研究室)が准教授に昇格されました。また、3月末には井村喜之専任講師(植物病理学研究室)がアメリカケンタッキー大学での留学から帰国されました。お二人のますますの活躍が期待されています。

[学科名称・カリキュラムの変更]

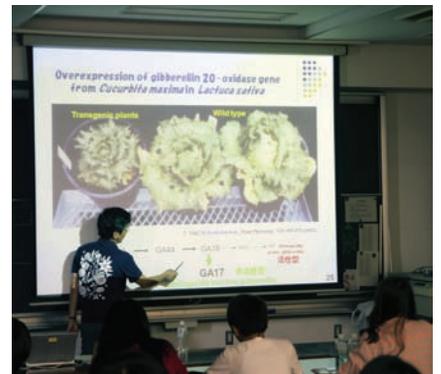
平成27年4月1日より学科名称が植物資源科学科から生命農学科に変更されます。カリキュラムは従来の農学を担った生産科学と造園緑地学に加えて、今後重要性が増す生命科学分野を拡充したものとなります。農学を

基盤として植物を中心とした分子生物学から生態学を含めた生命現象に関して体系的に教育し、未来の農を担う人材を育成することを目標としています。学科名称の変更に伴い各研究室の名称も変更されます。作物学研究室は作物科学研究室に、花卉園芸学研究室は花の科学研究室に、果樹・蔬菜園芸学研究室は園芸科学研究室に、遺伝育種学研究室は遺伝育種科学研究室に、植物病理学研究室は植物医科学研究室に、応用昆虫学研究室は応用昆虫科学研究室に、造園・緑地学研究室は緑地環境学研究室に、植物生産管理学研究室は農業生産技術研究室になります。新学科の下記HPもご覧ください。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~agb/index.html>

[台湾国立中興大学との交流]

7月2日～14日に台湾国立中興大学の学生15名が本学科に海外



台湾の学生とともに英語の講義を受ける学部生

研修に訪れました。研修では、我が国の農業の現状に関する講義を受講し、実験、実習、農作物の加工等を学部学生とともにを行い、学生間の親睦を深めました。また、9月2日から2週間にわたって、本学科の学生が中興大学を訪問し、台湾の熱帯・亜熱帯地域における農学について学びました。学科でのグローバル教育が進んでいます。

事務局より

庶務理事には井上弘明教授、また、今年度より事務局長は磯部勝孝准教授、庶務係は井村善之専任講師が担当しております。会員各位の近況や住所変更及び告知したいことなどをお知らせください。(立石 亮)

紫友会

◇生命化学科◇

連絡先 植物栄養生理学研究室
0466-84-3956 事務局長 野口 章
E-mail: noguchi@brs.nihon-u.ac.jp

紫友会60周年記念式典開催

今年度、紫友会は創設60周年を迎えます。平成26年11月8日には湘南校舎において、その記念式典を開催します。式典では、「歩みと展望 一産業界と密接に関わる生命化学科・農芸化学科・農学科農産製造学専攻一」を課題としたシンポジウムと懇親会を盛大に実施する予定です。当日は「ホームカミングデー」として在学生達もお待ちしておりますので、是非お越しのうえ、皆様で交流頂けますことを祈念しております。当式典については、別途案内を差し上げます。

紫友会特別賞の創設ならびに学生実験室OAシステム寄贈



60周年記念寄贈品

(整然と並ぶ50インチ液晶モニターとプロジェクタ、第1学生実験室)

創設60周年を記念して、紫友会特別賞を新設します。これは、各方面で名声を揚げた生命化学科在学生を表彰するものです。なお紫友会は、40周年時から紫友会奨学生制度を制定しています。

さらに学科に対して、生命化学科第一・第二学生実験室に設置する新規OAシステムを寄贈します。

平成26年度理事会ならびに総会

平成26年6月28日に湘南校舎において平成26年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成25年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認されました。平成26年度の事業計画・予算案および60周年記念行事についても決定されました。第2回理事会ならびに総会は、11月8日に、60周年記念式典に先立って開催される予定です。

平成26年度第21回紫友会奨学生決定

第21回紫友会奨学生9名が、

同奨学生選考委員会(春見隆文委員長)により厳正に選考され、下記(敬称略)のように決定いたしました。

2年次:西香苗、村上尚哉、田村千尋、3年次:中口夏美、久保百花、横山令奈、4年次:御子柴直紀、安田のぞみ、林浩和

生命化学科の近況

【在校生】平成26年3月25日に本学部アリーナで学位伝達式が開催され、平成25年度生命化学科・農芸化学科卒業生158名が社会へ羽ばたきました。同式では、野崎宮香さんに優等賞、新國美由さんと矢口真実さんに学部長賞が授与されました。

本年4月には新入生152名を迎え、当学科には総計604名(男子:311名、女子:293名)の学生が在籍しております。

【学科教員動向】平成26年3月31日付けで、朝倉由香里助教(植物栄養生理学研究室)と清塚まみ実習助手が任期満了にともないご退職されました。平成26年4月1日付けで、中川達功先生(環境微生物学研究室)が准教授に昇格され、同日付けで、荒瀧幸和実習助手が着任されました。

平成25年10月17日に、大石邦夫先生(旧微生物化学研究室、平成11年に定年ご退職)が79歳で急逝されました。大石先生が学生の教育・研究に励まれ、学科の発展にご尽力されたことに感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成25年度長期海外派遣研究員として、赤尾真助教(食品化学研究室)が平成26年3月より一年間、カナダ マニトバ大学へ出張中です。

平成26年4月1日付けで、つぎの4研究室が名称変更しました;発酵化学研究室(旧 酵素化学研究室)、環境微生物学研究室(旧 微生物機能化学研究室)、土壌圏科学研究室(旧 土壌圏化学研究室)、生物化学研究室(旧 生物分子機能化学研究室)。

平成26年8月6日、約100名の高校生が参加し、高校生のための実験セミナー「バイオサイエンス・スクール2014」を開催致しました。

紫友会会員のご子息ご令嬢が実験セミナーに興味、関心をお持ちでしたら、ぜひ次の機会にご



バイオサイエンス・スクール2014参加下さい。

農芸化学科第2期校友より

平成26年5月24日、農芸化学科第2期の同級会が、卒業以来51年ぶりに新横浜で開催されまし



農芸化学科第2期の同級会

た。紫友会では、校友からの同級会情報の収集や同級会への補助を行っておりますので、同級会開催の際は事務局へご連絡をお願い致します。

紫友会事務局より

会員・準会員支援活動の一環として、平成26年4月にフレッシュマンセミナー開催、白衣用名札贈呈(1年次学生)を行いました。7月には社会人キャリア力育成アセスメント試験(2年次学生)、9月に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会を行いました。10月には卒業研究入室説明会・懇親会(3年次学生)、来年2月に学科所属大学院修了者発表会・懇親会、3月に謝恩会(4年次学生)を支援する予定です。

本年4月に紫友会ホームページ(<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>)を開設致しました。「卒業生の登録」欄より、会員の皆様の住所変更や改姓などの手続きも可能となりました。是非紫友会ホームページをご覧ください。

【住所変更、改姓等の場合は、上述のHPもしくは先にお送りした60周年記念式典のお知らせに同封のハガキにて、必ずご一報ください。】

(袴田 航)



角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

平成26年度角笛会総会 第52回日本大学獣医学会開催

平成26年6月29日（日）、日本大学生物資源科学部10号館第4講義室において平成26年度角笛会総会及び第52回日本大学獣医学会が開催され、多くの会員が集まりました。日本大学獣医学会では山田武喜担当学会長のもと、口頭発表による11題の一般講演、次いで教育講演として「臨床家として知っておきたい～猫の感染症～」と題し、丸山総一先生（獣医公衆衛生学研究室）、遠矢幸伸先生（獣医微生物学研究室）、山谷吉樹先生（総合臨床獣医学研究室）、加納暎先生（獣医臨床病理学研究室）の獣医学科4教員および共立製薬株式会社の中村遊香先生(平成2年卒)により行われました。本年度も一般講演と教育講演の時間を大幅に確保したプログラムとなり、会場からの熱心な質問も多く、内容の充実した学会となりました。

角笛会総会では中川秀樹会長より挨拶があり、森田幸雄議長（昭和61年卒）の進行で審議が行われました。総会に先立ち、木村進先生をはじめ諸先生方のご訃報に際し、黙祷が行われました。平成25年度の事業活動および会計収支報告があり、承認されました。また平成26年度の事業活動および予算案が審議され、満場一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した功労者



平成26年度角笛会功労者の授与式

として平塚長生氏（秋田県）、田中治男氏（新潟県）、平松計久氏（京都府）、岩田颯三氏（千葉県）、山里明氏（沖縄県）、三枝清司氏（神奈川県）、藤田実氏（神奈川県）の7人に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的としたANMEC支援基金研究助成は、関瀬利氏（研究課題：頭蓋内器質性病変をもつ犬における血中NT-proBNP値の測定）が授賞しました。総会後、食堂棟3階にて開催された懇親会には学部校友会の内田俊太郎会長をはじめ他学科同僚校



平成26年度角笛会懇親会の様子

友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生（準会員）など多数の参加者が集りました。苦瀬義雄氏（昭和23年卒）の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。

第12回日本大学医療系同窓 校友学術講演会の開催

第12回日本大学医療系同窓・校友（医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会）学術講演会は平成25年10月5日（土）医学部主幹で「高齢化について」をテーマにシン



第12回日本大学医療系同窓・校友学術講演会のシンポジウムの様子

ポジウム形式で開催され、参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは総合臨床獣医学研究室内の北川勝人先生が

「高齢動物における神経疾患の診断治療の現状」と題して発表しました。本年度の第13回講演会は10月18日（土）歯学部の担当で「食と健康」をテーマに開催されます。角笛会からは東京家政大学家政学部栄養学科の森田幸雄教授(昭和61年卒)が「食の安全にかかわる食品由来感染症の動向と対策」と題して発表する予定です。多数のご参加をお待ちしております。

人事

本年3月をもって上地正実教授（獣医内科学研究室）と中野めぐみ実習助手(学科事務室)が退職されました。上地先生の退職に伴い、本年4月より巨敏広教授が総合臨床獣医学研究室から獣医内科学研究室に異動されました。森友忠昭先生が教授に昇格し比較免疫学研究室が新設され、渋谷久先生が教授に昇格し獣医分子病理学研究室が新設されました。五味浩司先生(獣医解剖学研究室)が教授に、坂井学先生（獣医内科学研究室）が准教授に、小熊圭祐先生（獣医伝染病学研究室）と齋藤光芳先生（獣医薬理学研究室）が助教に昇格されました。新たに、鈴木由紀助教（獣医衛生学研究室）、小池未記実習助手（家畜病院）、佐藤春花実習助手（学科事務室）が採用されました。

訃報

平成26年9月14日に桑原正人先生（獣医放射線学研究室）がご逝去されました。先生は教育・研究に励まれ、学科の発展にご尽力されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

角笛会事務局より

本年より、鯉江洋准教授が事務局長に就任致しました。今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。角笛会々員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。角笛会のホームページはhttp://hp.brs.nihon-u.ac.jp/tsuno_hp/index.shtmlからご覧いただけます。またはインターネットで「角笛会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますので活用ください。

（岡林 堅）

満喜葉会

◇動物資源科学科◇

連絡先 畜産マーケティング研究室
0466-84-3648 事務局長 小泉 聖一
E-mail: koizumi.seichi@nihon-u.ac.jp

平成26年度満喜葉会 —活動経過報告—

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月15日(木)午後2時より、博物館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成25年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成26年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後4時30分より食堂棟2階において新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2014」は、天候にも恵まれましたが、前日の気象予報の都合で全競技が体育館で執り行われました。毎年本会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新入生、教員に進呈していますが、今年も「Navy blue」のTシャツをユニフォームとして着用し健闘しました。

【平成26年度満喜葉会総会・懇親会の開催】

満喜葉会総会は、6月28日(土)午後2時より日本大学生物資源科学部(湘南キャンパス)博物館2階第1会議室で開催されました。事務局より過年度事業および決算報告、次年度事業計画および

予算案が出され、審議の後承認されました。さらに、70周年記念事業計画、平成26～28年度役員および事務局分掌について審議され、承認されました。総会閉会の後、午後3時30分より場所を学部食堂棟3階に移し懇親会が開催され、宴は約2時間半に渡り盛大に執り行なわれました。

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、151名が本学科を卒業し新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に138名の新入生を迎え、在籍者は4学年合計で603名(9月1日現在)となっています。本年度の1年生の男女比は、男子50名(36.0%)、女子89名(64.0%:過年度学生を含む)となり、現在も学部内で最も在籍女子学生比率が高い学科(在籍者の半数を超えているのは当学科と獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科の4学科)となっています。

【学科人事について】

平成25年11月14日付けで、40年以上に亘り学科運営、学生教育に務められてきた宮原晃義教授(畜産食品科学研究室)が退職されました。同先生は食品加工実習センター長も務められました。今後のご健康をお祈り致します。

本年4月1日付で大西彰(オオニシ・アキラ)先生が教授として採用されました。大西教授は、昭和57年3月に東京農業大学農学部畜



大西彰 教授

産学科を卒業され、同年4月より農林水産省畜産試験場に勤務の後、(独)農業生物資源研究所を経て本学科へ着任されました。動物生殖学研究室を主催され、動物生殖学、生命工学、動物生殖学実験等を担当されます。また、大西教授の着任に伴い、園田豊専任講師は動物組織機能学研究室へ異動しました。

本年4月1日付で相澤修(アイザワ・シュウ)先生が助手として採用されました。相澤助手は、平成18年3月本学科を卒業の後、本学大学院に進学され、平成23年3月に博士(生物資源科学)の学位を取得、日本学術振興会特別研究員を経て、平成24年より(独)国立精神・神経医療研究センターで研究員をされた後、今回の採用に至りました。現在は、動物組織機能学研究室に所属され、動物資源科学実験、動物生理学実験等を担当されます。今後、学生指導・研究活動での益々のご活躍を期待しております。



相澤修 助手

本年度の研究室の配置と所属教員(19名)は以下の通りです。

動物組織機能学

(山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 助手)

伴侶動物学

(甲斐 藏 教授、福澤めぐみ 助教)

ミルク科学

(増田哲也 教授、川井 泰 准教授)

動物育種学(長嶺慶隆 教授)

動物生殖学(大西 彰 教授)

野生動物学

(村田浩一 教授、岩佐真宏 准教授)

草地学

(丹羽美次 教授、佐伯真魚 准教授)

飼養学

(梶川 博 教授:学科主任、浅野早苗 助手)

畜産経営学(小林信一 教授)

畜産マーケティング

(小泉聖一 教授)

学科事務局

(須藤千絵 実習助手、玉造若菜 実習助手)

(山室 裕)



満喜葉会総会・懇親会の様子

いもづる会

◇食品ビジネス学科◇

連絡先 農村資源開発論研究室
0466-84-3408 事務局長 宮部 和幸
E-mail: miyabe@brs.nihon-u.ac.jp

平成26年度総会

総会・講演会・懇親会を開催

6月7日(土)、総会・講演会・懇親会が横浜・崎陽軒で開催されました。総会では昨年度の活動報告・会計報告と、本年度の活動計画・予算案が承認されました。役員体制及び会則の変更が行われました。厳しい就職活動に対する支援強化を図るため、昨年度に引き続き、OB・OGとの就職懇談会とフードスペシャリストの資格試験対策講座など各種支援を行うことにしました。

講演会では、本学科OBである秋田県農業試験場研究員・齋藤文信氏から、「農産物ブランド化戦略の現状と課題－秋田県での事例－」と題した講演をいただきました。秋田県独自品種の枝豆やスイカを事例として、農産物のブランド化に向けての具体的な取り組みや直面する課題などについて、スライドを交えながら詳細に報告いただきました。懇親会では、島津・高坂先生を囲む会も開催され、両先生に関係する会員ほか、その他多くの会員が参加し、準会員(学生)を含めた約80名で、盛大に行われました。



総会・講演会・懇親会

食品ビジネス学科の近況 【新入生】

3月25日に176名の学生(第68期生)が卒業し、本年度は142名の新入生(男性61名、女性81名)



地引き網

を迎えました。4月には新入生研修会として、江ノ島鵜沼海岸で地引き網が行われ、上級生の



スポーツフェスタ

企画のゼミ対抗クイズ等のイベントも行われ、学生間での親睦を深めました。

5月には学部主催のスポーツフェスタが開催されました。新入生は、投票で一位になったデザインのお揃いのTシャツを着て、学科一丸となって奮闘、新入生間の結束力が高まりました。

【Facebook】

学科の現在の様子をタイムリーに発信するため、フェイスブックを立ち上げております。学科での各種活動状況やゼミ活動などは、食品ビジネス学科フェイスブックをご覧ください。

【教職員の動き】

3月末に大石卓史先生が退職

され、代わって、本年4月から小野洋先生(資源・環境経済学研究室)が着任されました。「マクロ経済学」、「資源と環境の経済学」、「食料生産実習」などを担当されます。

事務局

校友の情報を広く共有し、学生との交流促進と学生の就職活動にも活用するため、いもづる会HPを運用しています。校友の情報交換をより活性化させるため、HPにおいて「校友のひろば」を設置しております。HPのURLは以下の通りです。今後、多くの校友の方の情報提供をお願いいたします。食品ビジネス学科HPからもアクセス可能です。<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>

(宮部 和幸)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林植物・微生物学研究室
0466-84-3666 事務局長 鍛代 邦夫
E-mail: kitai@brs.nihon-u.ac.jp

平成25年度あすなろ会活動報告

平成25年10月に予定されていた総会が台風のため延期され、平成26年1月25日に開催されました。総会では平成23、24年度の事業報告、決算報告、監査報告、及び平成25年度事業計画(案)、予算(案)が承認されました。さらに、役員任期を平成26年度より3年とすること、通常総会を3年に1度開催すること等が承認されました。総会が開催されない年の事業報告、決算及び事業計画(案)及び予算については役員会で審議することになりました。また、次期役員として、会長には第20期(昭和46年卒業)の宮島吉夫氏が、副会長には第25期の東郷聖史氏と第29期の渡辺隆之氏が、幹事長には第28期の鍛代邦夫氏が就任することになりました。

学科の近況

学科OB・OG就職懇願会

毎年11月に、約20名の卒業生に大学まで来ていただき、これから就職活動を迎える3年生を対象に仕事内容や就職活動の経験等をお話ししてもらいます。昨年11月20日に開催され、3年生の就職活動の第一歩に力を与えてもらいました。

卒業生・新入生

本年3月25日、150名が本学科を卒業しました。毎年、研究室で

最も成績の優秀な卒業生に「あすなろ会、会長賞」を授与しています。今年も6名に表彰状と記念品が授与されました。4月には150名(男子104名、女子46名)の新入生を迎え新学期が始まりました。6月には毎年実施している1年生全員参加の森林資源科学実習を日本大学軽井沢研修所で行いました。浅間山を囲む森林の中で森林資源科学の第一歩を元気にスタートしました。

学科人事

本年4月、森林動物学研究室に中島啓裕助教が採用されました。専門は生態学・哺乳類学で今後の活躍が期待されています。

実習あれこれ

夏期森林実習

2014年8月末の4日間、八雲演習林で地域の方々のご協力をいただきながら、亜寒帯林の森林の生態と管理に関する理論と実践を学ぶ実習を行いました。補助学生を含め47名の学生が参加しました。実習では苗畑管理作



高性能林業機械によるトドマツ木材生産現場の見学と実践体験

業の見学と実践、プレカット工場視察、下刈り作業の実践、高性

能林業機械作業見学と機械運転の体験、製材工場見学等々を実施しています。

森林海外実習

世界有数の森林・林業地帯であり、森林環境保全に関する取り組み先進地域であるアメリカ西海岸でこの実習を毎年3月中旬に実施しています。日本とは異なった森林の世界を学ぶことで、これからの勉強の発展に繋がることと思います。実習ではワシントン州立大学でアメリカの森林・



樹高100m以上に成長するレッドウッドの森林を見学

林業に関する講義及び演習林の見学、アメリカ森林研究所では現在実施されている森林研究の学習、ワシントン州からカリフォルニア州にかけて分布するダグラスファーやレッドウッド森林、オリンピック半島の温帯雨林等の見学等が主要内容です。

あすなろ会

ホームページがスタート

あすなろ会ホームページを下記アドレスに開設しました。宮島会長の挨拶、役員人事、会則、行事予定等が掲載されています。また、あすなろ会60周年記念行事として作成した「あすなろ会60年のあゆみ」をご覧になることができます。会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、事務局までお知らせ下さい。是非、このホームページをご活用いただきたいと思います。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

会員の皆様からのお便りをお待ちしております。

(阿部 和時)



1年生全員参加の森林資源科学実習(軽井沢研修所)



桜水会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 魚群行動計測学研究室
0466-84-3688 事務局長 小島 隆人
E-mail: kojima.takahito@nihon-u.ac.jp

平成26年度桜水会 総会・懇親会を開催

平成26年6月14日(土)午後2時30分より湘南キャンパス10号館で「平成26年度の総会・代議員会・理事会および10年毎の同窓会」が開催されました。総会に先立ち、本年にお亡くなりになられた吉田良之桜水会第11代会長(15期)、東 禎三先生(1期)、望月 篤先生(11期)のご冥福を祈り、出席者全員で黙祷を捧げました。平成25年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成26年度の事業計画案、予算案などが審議され、全て承認されました。また、3年毎の役員改選があり、橋ヶ迫 覚会長代行(18期)が選出されました。「10年毎の同窓会」は、卒業後2年目(平成24年卒、61期)、10年目(同16年卒、53期)、20年目(同6年卒、43期)、30年目(昭和59年卒、33期)、40年目(同49年卒、23期)ならびに70歳以上の卒業生を対象に行われました。続いて午後4時より食堂棟3階NUBSホールで会員・学科教員に加え、準会員である4年次在学学生数十名も参加し参加しての懇親会が盛大に開催されました。その際に、将棋で2年連続(2012・2013年)の第44・45期女流アマ名人、2013年学生女流名人などのタイトルを獲得された小野ゆかりさん(海洋生物資源科学科4年)に橋ヶ迫新会長より表彰状と記念品が贈られました。

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生



新入生オリエンテーション

物資源科学概論」(1年次必修科目)の中で卒業生の体験談などを参考に将来就いてみたい職業を見出す「職業の研究」の一環として、4月19日に長谷川勝治氏(20期、元静岡県立焼津水産高等学校校長)、4月26日に山本亜沙美氏(54期、WWFジャパン)、6月16日に高橋功平氏(61期、中島水産(株))と鈴木大祐氏(61期、三基商事(株))、6月30日に大力圭太郎氏(55期、埼玉水試)と三浦 愛氏(59期、(株)イングロ)が講演しました。「特別講義」(3年次選択科目)では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE対応コース)の外部評価委員を委嘱されている会員が技術者教育の一環として、6月18日に宮下一明氏(38期、(株)東京久栄)、6月25日に尾崎之紀氏(37期、味の浜藤(株))、7月2日に辻 雅司氏(24期、(株)日刊食料新聞社)、7月9日に市橋 理氏(37期、アジア航測(株))が講義を行いました。1年次の必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」への支援、スポーツフェスタ(学部運動会)の学科Tシャツ作成(デザインを刷新)、学科広報用パンフレットの作成〔安齊 俊氏(55期、イラストレーター)に学科イメージのイラスト

トを依頼]を支援しました。今年度中には、学科受験生対策勉強会への補助、在学生の学会参加費等の補助、卒業時の記念品の贈答、就職活動の支援等をする予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【**新入生・在学生**】本年4月に132名(男子89名、女子43名)の新入生を迎え、現在598名(男子395名、女子203名)の学生が在籍しています。本年の新入生から新カリキュラム、昨年度以前入学の在学生は旧カリキュラムでの授業を行っています。新入生オリエンテーションとして4月12日(土)に鶴沼海岸で地曳き網と新江ノ島水族館見学を行いました。当日は、快晴の下、教員・学生が一緒に網を曳きました。

【**人事**】平成26年4月に鈴木美和先生が准教授、小糸智子先生と牧口祐也先生が助教にそれぞれ昇格されました。内田直行教授が本年10月21日付けで定年退職されます(平成27年3月31日まで非常勤講師)。内田先生は、本学科(旧 水産学科)に赴任され、32年間の長きに渡り本学科で教鞭を執られ、学科のために多大なご尽力をされました。

桜水会事務局より

桜水会々員の皆様の新況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページは<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/osuikai/>からご覧いただけます。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご利用ください。

(荒 功一)



総会集合写真

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 水資源環境工学研究室
0466-84-3693 事務局長 石川 重雄
E-mail: sishika@brs.nihon-u.ac.jp

創立50周年記念式典 祝賀会を盛大に開催

工学会は昭和38年6月に発足して以来50年の歴史を重ね、これを記念して平成25年11月9日（土）に創立50周年記念式典・祝賀会を執り行いました。会場は高級感あふれるホテル椿山荘で、参加者は会員210名、来賓54名を集め盛大に行われました。



50周年記念式典・祝賀会

司会進行には、本学芸術学部卒業で元フジテレビアナウンサーの近藤サト氏をお願いし、校歌斉唱などの演奏にオール日大の吹奏楽研究会、コーラス隊として元オール日大合唱団有志のカルテットという、華やかな顔ぶれと演出で会は大変盛り上がりしました。また、この式典では50周年を記念して新調された会旗の披露が小須田信一理事より、50周年記念誌の披露が酒井一夫理事より行われました。



50周年記念誌

記念誌は会員213名からの寄稿で103ページ、現教員、旧師からの寄稿で40ページ、全285ページの労作です。お手元に届いていない会員の皆様はぜひ事務局までご連絡ください。

平成25年度 総会および記念講演会の開催

上記の50周年記念式典に先立って、同じく椿山荘にて総会・講演会を行いました。24年度事業報告および決算報告、25年度事業計画および予算案が承認されました。

記念講演会では、「米粉が救う食と農の危機－農業の再生とあたらしい食文化の創造－」と題して、いもづる会会長でNPO



島田 圭一郎氏

法人国内産米粉促進ネットワーク理事長の島田圭一郎氏より講演をいただきました。来場者には米粉ロールケーキのサービスもありました。続いての講演では、「国際協力の工学的展開」



岩本 彰氏

と題して昭和54年卒業の会員でNTCインターナショナル（株）代表取締役社長の岩本彰氏より講演いただきました。両講演とも50周年記念式典前ということもあり、多くの会員と来賓の聴講者であふれ、会場はほぼ満席の盛況ぶりでした。

学科教員の動向

平成26年度の新任人事として、環境土木施設工学研究室に川本治教授、学科事務室に磯部礼葉実習助手が着任されました。



川本 治 教授

これに先立ち、工学会前事務局長の青木正雄教授が定年により退職いたしました。青木先生は平成26年3月の定年までのおよそ8年半の間、事務局長を務められ、特に50周年記念事業には大変なご尽力をいただきました。これまでのご尽力に感謝するとともに、ゆっくり骨休めをしていただければと思います。



磯部 礼葉 実習助手

総合3位 スポーツフェスタ

学部スポーツフェスタ（運動会）が5月15日に開催され、当学科1年生は工学会からの支援によるTシャツを着て大奮闘、15年ぶりの総合3位という好成績を残しました。

本学科初の海外研修の実施

8月6日～15日（8泊10日）の日程でアメリカ合衆国ニューヨーク州への海外研修に本学科3年女子学生6名が参加しました。糸長学科主任と内ヶ崎准教授の引率により、イサカ・エコビレッジ、コーネル大学をはじめ、ワイン工場などの視察も行い有意義な研修となったようです。3年次科目「学外実習」の単位対象でも



海外研修での一コマ

あり、学外実習報告会での報告を経て単位が認定されます。

訃報

本学科教員および日本大学理事としても活躍された山澤新吾先生が平成26年6月14日心不全のため91歳で逝去されました。これまで学科および日本大学の発展に尽力されたことに感謝するとともにご冥福を心よりお祈りいたします。

（笹田 勝寛）

FT会

◇食品生命学科◇

連絡先 食品健康解析学研究室
0466-84-3987 事務局長 千野 誠
E-mail: chino.makoto@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

○FT会理事会および総会の開催

FT会理事会が平成26年4月12日に、FT会総会は平成26年6月14日に本学湘南キャンパス食品生命学科会議室において開催されました。総会では平成25年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成26年度事業計画案および会計収支予算に関して承認されました。

○FT会50周年記念祝賀会

FT会事務局では、FT会50周年記念祝賀会の準備をしております。現在、平成27年6月13日夕刻より実施するよう調整いたしております。最新の実施概要については、FT会のホームページ(<http://www.ftkai.net/>)にて、お知らせする予定です。多くの会員のご参加をお待ちしております。

○準会員（在学生）への活動

平成26年3月25日に食品生命学科146名(第49期)と食品科学工学科1名(第48期)の計147名の4年生が卒業しました。なお、第49期学生(4年生)の中からFT会長賞を柳原希枝子さんに授与しました。柳原さんは、成績優秀で4年間の学生生活の中で165単位を取得した学生です。今後のご活躍を期待しております。

新入生へは本学軽井沢研修所で実施されたフレッシュマンセ

ミナーと学部スポーツフェスタで飲食物などの補助をしました。なお、スポーツフェスタは、優勝という見事な成績でした。当学科の優勝は、7年ぶりです。

生が助教として着任されました。石神先生は、神戸大学大学院工学研究科博士後期課程修了後、神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻特命助教として化学工



スポーツフェスタ 優勝

2年生および3年生には、学外実習の補助を、3年生には、さらに教員との懇親会へ飲食物の補助をしました。4年生へは、研究室対抗球技大会への補助を実施しました。

学、流体工学およびレオロジー分野で活躍されておりました。

平成26年4月1日付けで食品生命機能学研究室の細野 朗先生が教授、おなじく高橋恭子先生が准教授に昇格されました。



食品製造実習 I (1年生) 実習風景

学科の近況

○学科人事および研究室移転

食品生命工学研究室(今井正直教授・陶 慧専任講師)に新しく石神 徹先



石神 徹先生

今後のご活躍を祈念いたします。

平成26年6月より食品生命機能学研究室が先端食機能研究センターに研究室を移転しました。

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、FT会のホームページ(<http://ftkai.net/>)からも各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)



新入生フレッシュマンセミナー

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 熱帯資源作物研究室
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸
E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成26年度幹事会・総会の報告

平成26年6月28日、平成26年度拓友会幹事会および総会が開催されました。総会は25名の出席でした。第1号議案として、平成25年度活動報告ならびに決算報告、第2号議案として、平成26年度事業計画案ならびに予算案、第3号議案として、平成26年度～28年度役員の内が審議され、事務局提出案が承認されました。

平成25年度拓友賞授与

平成25年度の拓友賞は、齊藤桃子さんが国際地域開発学科より推薦され、平成26年3月23日に実施された卒業パーティーの席上、内田会長より表彰状ならびに副賞が授与されました。

平成26年度学科海外研修旅行開催予定

学科主催の海外研修旅行は冬季にベトナムで開催予定です。

活躍する拓友

平成13年卒 中島 紀昌

トキタ種苗(株)大和根研究農場

中島氏は、卒業後信州大学大学院修士課程を修了し、青年海外協力隊としてブータンに派遣されました。帰国後、専門技術と海外経験が高く評価され現在の会社に入社しました。コマツナやイタリア野菜の品種開発・改良を担当していて、年に何度もイタリア、インド、アメリカ支社に出張し、現地指導にあたっています。また、国内ではイタリア野菜の普及にも取り組んでいて、生産者やシェフにプレゼンし栽培方法から調理方法までアイデアを提供しています。卒業生の皆さんも彼の作ったイタリア野菜を知らず知らずに口にしているかもしれません。



研究農場で働く中島OB

平成25年卒 齊藤 雄介
青年海外協力隊 セネガル国派遣中
平成26年6月10日の「国際地域開発学入門」の講義において、JOCA(青年海外協力協会)協力のもとに青年海外協力隊説明会を実施しました。その中で現在派遣中のOBの斎藤雄介君とスカイプを使いリアルタイムで1年生とセネガルを結んで意見交換を行いました。1年生の中には青年海外協力隊への参加希望者も多いので、現地の声を生で聞けて勉強になったと大好評でした。



セネガルから話す斉藤OB

平成11年卒 石垣(竹村)真奈 ICネット

平成13年卒、高橋 樹

三祐コンサルタンツ

平成15年卒、栗原(長澤)一寿 カメルーン国JICA専門家

平成26年9月27日に本学部大講堂において海外農業開発コンサルタンツ協会(ADCA)主催で、「国際協力への第一歩 - 未来のグローバル人材に求められるスキル-」が開催されました。栗原氏には、カメルーン国の陸稲普及に関する話題を講演してもらいました。石垣氏には、倉内教授らとともにパネルディスカッションに参加してもらい、高橋氏は



セミナーに参加した石垣OGと倉内教授 総合司会を担当しました。300名以上の来場者が集まり、学生も多く参加しました。

昭和50年卒 坪井達史 JICA稲作上級アドバイザー

11月2日の学園祭期間中に秋季特別講座として、坪井達史OBが、「アフリカの稲作と人造りに人生を賭ける! - 「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた男



ウガンダで活躍する坪井OB

(Newsweek誌)の講演を開催します。坪井氏はミスターネリカと呼ばれ、アフリカの稲作普及の第一人者で世界的に有名です。これまで、外務省から国際協力功労賞、日本熱帯農業学会から学会賞、食の新潟国際賞財団から食の新潟国際賞などを受賞されています。

学部校友会会長再任

拓友会会長の内田俊太郎氏が、学部校友会会長に3選されました。任期は3年間です。また、内田氏は、9月10日付けで本部理事に任命されました。ますますのご活躍を祈念いたします。

学部ポスター

今年度学部ポスターに本学科熱帯資源作物研究室の研究材料であるモロコシ(ソルガム)が採用されました。研究室や学科の取り組みについても記載されているので、学科PRに活用して下さい。

教員の動向

増見教授が、平成26年3月31日に定年退職されました。平成25年4月1日付でロイ キンシュック先生が教授に昇格されました。また、比較文化研究室にOBの園江満先生が助教として採用されました。

在校生の近況

平成26年9月1日現在、1年生155名、2年生147名、3年生163名、4年生168名の合計633名(うち男子425名、女子208名)が在籍しています。

拓友会事務局より

拓友会ホームページ<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/takuyu/takuyu/toppupeji.html>をご覧下さい。また、会員各位の近況や同期会などの活動の様子もお知らせ下さい。住所変更もホームページから行えます。

(倉内 伸幸)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail : akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

応用生物科学科の在籍学生数は582名、学年別では1年生163名(男97名、女66名)、2年生118名(男64名、女54名)、3年生144名(男88名、女56名)、4年生157名(男97名、女60名)となっています。

昨年度は163名(男103名、女60名)の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

教員の異動

平成26年3月に植物細胞学研究室の綾部真一教授が、7月に核酸・蛋白質科学研究所の細野邦昭教授が定年退職されました。両先生には、本学科のために長年ご尽力いただき誠にありがとうございました。平成26年4月には、植物細胞学研究室の内山寛先生が教授に、分子微生物学研究所の岩淵範之先生が准教授に昇格されました。今後さらなるご自身の研究の発展に加え、学生の教育へのお力添えをお願い致します。

カリキュラムの改正とホームページ

カリキュラムを改正し、現1年生より新カリキュラムとなりました。「イノベティブなバイオサイエンスとバイオテクノロジーを創出できる人材を育成し社会に貢献する」ことを目標に教育、研究活動を行っています。7月には学科のホームページをリニューアルしました。新カリキュラム等の詳細はホームページをご覧ください<<http://www.brs-nihon-u-abs.com>>。

協賛活動

平成26年4月に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの4年生や大学院生も参加し、



新入生ガイダンス



オープンキャンパス

講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。

同じく5月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたT-シャツを着て競技や応援を行いました。

さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。また研究室の開放を行いました。



スポーツフェスタ

5月25日(日)と8月3日(日)、4日(月)には、学部のオープンキャンパスが開催されました。内山教授(植物の不思議を探る～食虫植物の秘密～)と岩淵准教授(微生物の不思議を科学する～油の中で生きる微生物の仕組み～)による模擬講義が行われました。4号館では各研究室の展示を行いました。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、

訃報

平成26年9月2日に室岡治義先生(分子微生物学研究室)がご逝去されました。先生は教育・研究活動にご尽力されるとともに、初代の学科主任を務められ、学科の発展に大きな貢献をされました。ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さい。

(明石 智義)



学科説明会

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局長 蒲原 義明
E-mail : kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

学科の近況

【新入生】

本年度は新たに154名(女子:82名、男子:73名)の新入生が入学してきました。現在、二年生と合わせ315名(女子:169名、男子:146名)の学生が在籍しています。



軽井沢研修旅行

4月10・11日には軽井沢新入生研修会が開催されました。お天気も恵まれ、軽井沢の自然の中で新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図る事ができました。5月15日にはスポーツフェスタが行われま



準優勝で幕を閉じたスポーツフェスタ



スポーツフェスタでの綱引き

した。新入生の大奮闘により、大縄跳び大会とドッチボール大会で優勝し、総合で準優勝と快挙を成し遂げました。

【卒業生】

平成26年3月25日に153名が無事卒業しました。武道館で卒業式、湘南校舎にて卒業式及び学位伝



H25年度学位授与式の様子

達式が執り行われました。翌日には卒業パーティが横浜ロイヤルパークホテルにて華やかに行われました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入88名(三



卒業パーティー

【学科教員動向】

平成26年3月で田崎義浩先生がご退職されました。新たに平成26年4月に相澤朋子先生(助教)が着



相澤 朋子 助教
任されました。相澤先生は光澤浩先生の分子遺伝学研究室所属になります。

【募集停止のお知らせ】

短期大学部生物資源学科では本年度平成26年度入学生を最後に、学生募集を停止いたしました。本年度新入生が卒業する平成28年3月をもって昭和25年に設立された本学科の前身である農業科から数えて65年の歴史が閉じられる事になります。大変寂しい事ですが、在学生には、卒業するまで責任をもってこれまでと同様に編入学、就職など一人一人のニーズに合わせたサポートを行っていきます。なお、今後の湘南校友会のあり方については、学部校友会と相談をしております。

事務局より

湘南校友会のHPが開設されました。

URLは<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/shonan/>です。または日本大学生物資源科学部校友会のHP『分会・支部一覧』のページからジャンプできます。是非一度ご覧ください。会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、HPより変更手続きを行ってください。同期会などおこないましたら、事務局までその様子をお知らせください。

(山内 綾子)

年次編入:49名、二年次編入:39名)、他大学への編入8名、専門学校9名、就職21名、その他は留学、アルバイト・家事・就職活動中などでした。他大学・他学部の編入は茨城大学、秋田県立大学、石巻専修大学、日本大学国際関係学部など、就職先は山崎製パン、神奈川県信用農業協同組合連合会、富山市役所、ホンダプリモ神奈川南、などが挙げられます。



支部だより

宮城県支部の近況

連絡先
〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31
小野 隆事務所内 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail: ono-takashi@almond.ocn.ne.jp



▼8月23日(土)平成26年度研修会・総会・懇親会開催しました。

▼農業の主要施策・対策など「国の農業政策展開」について高



瀬修氏・畜産S55(前・県農業振興課長)を講師に研修会。

▼4月14日(月)毎年50万人余の花見客で賑わう全国お花見1000景白石川堤・一目千本桜を残雪の蔵王連峰を背に観桜会。



▼8月14日(木)台日親善蘭桜会訪日団関連記事は本会報6ページに掲載。

▼8月17日(日)山形県支部との交流会を芭蕉も訪れた古刹山寺・立石寺を訪ね、鬱蒼と茂る



木立の中、千段余の石段を煩惱を祓いながら参拝し、名物板そば・地酒をいただき歓談しました。来年は宮城県で。
(事務局長 櫻田昇)

山形県支部の近況

連絡先
〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:ikedatakurou@nihon-u.ac.jp



平成26年2月22日(土)かみのやま温泉「にほんの宿 古窯」にて、第22回山形県支部総会・懇親会を開催致しました。総会には、県内の校友会会員以外に、学部長河野英一氏、食品生命学科主任教授 竹永章生氏、山形高等学校・中学校教頭 中村薫氏、経済学部校友会山形県支部支部長 田中教仁氏、工科系校友会山形県支部支部長 長瀬健一氏、法学部校友会山形県支部副支部長 斯波誠氏、生物資源科学部校友会宮城県支部幹事長 鎌田雅敬氏、生物資源科学部校友会宮城県支部幹事 早坂睦雄氏にもご臨席いただきました。

総会は植松恒美支部長挨拶の後、来賓各位がご紹介され、その後議長に阿部宏氏(生命化学科S54年度卒)を選出し、会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案通り可決決定されました。講演会では、講師に学部長であられる生物環境工学科教授 河野英一先生を迎え『世界と日本の農が抱える3つの課題～人口・食料・環境』と題した講演をいただき、会員一同、学生に戻ったかのように真剣に聞き入っていました。また、来賓の竹永章生先生より「学部・学生の近況について」お話をいただきました。

懇親会では、恒例の学科毎の「自己紹介」や、「近況報告」を通して更に親交を深め、絆を深める懇親会を開く事が出来ました。

高知県支部の近況

連絡先
〒785-0610 高知県高岡郡梶原町梶原1173-2
高知県支部事務局 來米 豊史
TEL.0889-65-0818
E-mail:kurume@flute.ocn.ne.jp

第26回高知県支部総会と懇親会を平成26年8月30日(土)に昨



年と同じ料亭“得月楼”で開催致しました。

高知県出身の作家“宮尾登美子”さんの作品“陽気楼”はこの料亭が舞台となっており、五社英雄監督、主演、池上季実子、浅野温子、緒形拳などで映画化もされました、自由民権運動の活動家や文人墨客の書画も多数見ることが出来ます。

総会には、河野英一学部長、学



部校友会内田俊太郎会長に御臨席を頂き、支部会員24名が出席しました。

まず会議の冒頭、物故会員に対して黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。

その後、森田稔雄支部会長による総会開催宣言から会が始まり、来賓の河野英一学部長より、近年学部の偏差値が非常に上がっている等の近況をお話し頂き、



内田俊太郎会長からもご挨拶を頂きました。

総会の議事として役員の変更を行い、3期9年にわたって会長を務められた森田稔雄会長が顧問となり、新会長に前川卓也(農学科)前事務局長、副会長に岡林正幸(農芸化学科)前理事、事務局長に來米豊史(食品経済学科)前理事が就任することになりました。

次ページへ続く



前ページより続く

今年は毎年ご参加頂いています、高坂鉄雄食品ビジネス学科元教授が都合の為参加頂けませんでしたがお手紙を頂き古屋眞顧問よりお読みあげ頂きました。また来年のご参加をお待ちしております。

大学からは資料と一緒に生物資源科学部のブルーベリー酢をお土産として各会員に頂きました。



総会終了後記念撮影、そして、長崎収夫顧問の乾杯の音頭で懇親会となり、それぞれに親睦を深めることができました。

高知県支部も若い会員の参加を増やしていく事と、この会を利用したネットワークで進学や就職、ビジネス等に役立てていけるようにしていきたいと考えています。

懇親会の最後は日大校歌合唱、締めには長崎英二様の応援エールで終了、夏の土佐の夜は更けて行きました。

神奈川県支部の近況

連絡先 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866 日本大学生物資源科学部 神奈川県支部事務局 事務局長 百瀬 博文 TEL. 0466-84-3393 E-mail: momose@brs.nihon-u.ac.jp



平成26年度総会・懇親会(崎陽軒本店にて) 神奈川県支部は、菜園活動を柱として会員の親睦を深めています。毎週月曜日には有志が集い、20種類もの野菜栽培や以下のような活動をしています(支部活動の様子は随時Webで紹介しています: 学部校友会HPよりリンクあり)。小牧理事を中心に学部付属農場周辺で養蜂を行い、採集した蜂蜜を「湘南の百花蜜」と名づけ、学部祭期間中の11月2日に販売致しました。続いて12月14日には新蕎麦の試食会を行いました。8月末に播種、10月末に収穫、ひと月かけて乾燥・脱穀・唐箕で風選しました。手塩にかけた蕎麦は格別で、しき



新蕎麦試食会で蕎麦切りをする 世良田支部長

りと舌鼓を打っていました。今年に入り、1月2・3日には藤沢遊行寺のヨンドンで箱根駅伝の応援と新年会を行いました。2月の全国的な豪雪では湘南も只ならぬ積雪があり、活動拠点のビニールハウスが倒壊しました。学部校友会から補助をいただき、ようやく7月に再建できました。学部校友会には改めて御礼申し上げます。5月31日には30名近い会員の出席と多数の来賓をお招きし、横浜の崎陽軒本店で総会・懇親会を行い、旧交を温めることが出来ました。最後になりましたが、この総会をもって、前任の岩野秀俊先生より事務局長を引き継ぎました。よろしくお願い致します。

日本大学生物資源科学部校友会

Table listing members of the alumni association, including names, titles, and graduation years.

役員・事務局名簿

Table listing the names and graduation years of the board members and staff.

1 校友会事務局の移転について

校友会事務局は、入居していた1号館の立替工事のため、8月末に博物館棟2階に移転しました。新しい棟が完成します平成28年3月までの仮事務局です。

なお、電話及びFAX番号は変更なく従来のままです。

2 平成27年度の通常総会及び懇親会の開催について

- (1) 通常総会
① 日時 平成27年7月11日(土) 午後2時から
② 場所 日本大学生物資源科学部 NUホールA
(2) 懇親会
① 日時 平成27年7月11日(土) 午後4時から
② 場所 日本大学生物資源科学部 食堂棟3階
なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承願います。

3 学部(藤桜)祭について

平成26年度の学部祭は、11月1日(土)から3日(月)までの3日間学部内で開催されます。校友会では、休憩の場とし博物館棟2階の事務局会議室に「OB・OGの部屋」を準備いたしますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

会報編集委員

Table listing the names of the editorial committee members.

発行所 日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866 TEL.0466-84-3799 FAX.0466-84-3531 E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp 印刷所 ベーシックプリント 田崎 秀明 〒330-0073 埼玉県さいたま市元町2-17-13 TEL.048-679-5556 FAX.048-679-5557